

(陳受3第18号)

子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）の副反応被害に関する情報提供を求めることに関する陳情

受理年月日

令和3年11月11日

陳情者

陳情の要旨

私の娘は2012年春、高校進学直前に接種した子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）を接種後、徐々に薬では鎮静しない頭痛や全身の痛み、だるさなどの症状が現れ始めました。そして、高3になる前の春には、不自然な手足の震えや、急に下肢の感覚がなくなり歩くことも立っていることさえもできなくなり、武蔵野日赤病院で精密検査を受けたものの、原因不明のまま、一時は寝たきりとなり、車椅子での不自由な生活を余儀なくされました。

その後、テレビで見た、子宮頸がん予防ワクチンの被害女性の体の動きが娘とそっくりなことから4つの医療機関を受診しましたが、2つの医療機関で「詐病扱い」を受け絶望的な日々の中、3つ目で診断書が、4つ目で娘に合う治療に出会い、今現在も症状悪化を防ぐため治療を続けております。

あのとき、市から送られてきたワクチン無料接種案内に何の疑念も持たずに、娘に接種を促してしまったことで、ごく普通の学生生活を送らせてあげられなかったこと、娘が描いていた将来の夢（医療機関での仕事）を断念せざるを得なかったこと、心身ともに取り返しのつかない負担をかけさせてしまったことは、後悔という言葉だけでは片づけられず、とても悲痛な思いで今でも胸が苦しくなり、悔やんでも悔やんでも悔やみ切れません。

娘の人生に大きな影を落としたひどいワクチン副反応は、起きる確率は全体からするとかなり低いかもしれませんが、現実にはここ武蔵野市で起きている（過去のことではない）事態であることを忘れないでほしい。私たち家族や娘のようにつらい経験をする武蔵野市民が再び現れることのないように対処してほしいです。

以上のことから、武蔵野市に対し、子宮頸がん予防ワクチンによる副反応被害を防ぐために下記のことを陳情します。

記

- 1 国の通知に従うだけでなく、武蔵野市独自のリーフレットを作成する、ホームページでの表現を工夫する、など、副反応被害についての情報提供を可能な限り行ってください。
- 2 ワクチンはリスクがあり、各自が副反応被害の事例や参考になるウェブサイトでの情報収集を行った上で、接種の判断をするよう、明記してください。
- 3 子宮頸がんは、検診を受けて初期に発見すればほとんど治癒する疾病で、予防のためには定期的な検診を受けることが最も重要であること。ワクチンを受けたとしても定期的な検診の必要性は変わらないこと。武蔵野市は婦人科検診に注力しており、安心して検診を受けられる体制が整っていること。検診無料クーポンが送られてくる時期のお知らせや市内で受診できる病院の案内。など、検診の重

要性をワクチン接種の案内と同時に周知してください。また検診受診率向上の努力を一層進めてください。